

第22回コミュニティ政策学会 世田谷大会 プログラム

【エクスカーション】6月30日(金)

「下北線路街：『シモキタらしい』人々の営みが生み出す都市空間」
15:00～ まちあるきセッション(定員20名) <受付開始14:45>
17:00～ ディスカッション(定員50名)
【会場】北沢タウンホール

【第1日目】7月1日(土)

13:00～13:15	開会式	主催者あいさつ・来賓あいさつ
13:15～15:30	全体セッション	「自律分散型コミュニティは可能か～世田谷のいまとむかしから考える」
16:00～17:30	分科会(1)	①「世田谷まちづくりファンドの成果をどのように引き継ぐか」 ②「次世代のまちの担い手としての創発的コミュニティ、 またはDAO的まちづくりの可能性をめぐって」

【第2日目】7月2日(日)

9:00～10:20	自由論題部会(1)	1-1(2題)、1-2(3題)
10:30～12:30	自由論題部会(2)	2-1(4題)、2-2(4題)
12:30～13:00	ポスターセッション	7枚
13:00～14:30	分科会(2)	③「区民版子ども子育て会議に見る子育て支援施策の形成プロセス」 ④「世田谷でのみどりのまちづくりの変遷と可能性 ～みどりを通したコミュニティ形成への展開～」 ⑤「データで読み解く世田谷区の地域特性と地域コミュニティ」
15:00～16:30	分科会(3)	⑥「プレーパーク活動から考える住民と行政の協働」 ⑦「世田谷における「福祉のまちづくり」の軌跡をたどる」

申し込み方法

申し込み受付期間：2023年6月6日(火)～6月27日(火)

【大会】<https://jacp-setagaya2023.peatix.com/>

大会参加申し込みと参加費の支払いは、事前に上記サイト(Peatix)からお願いいたします。大会開催当日の現金は原則として受付ができません。大会の円滑運営に向け、事前のお申込みにご協力ください。



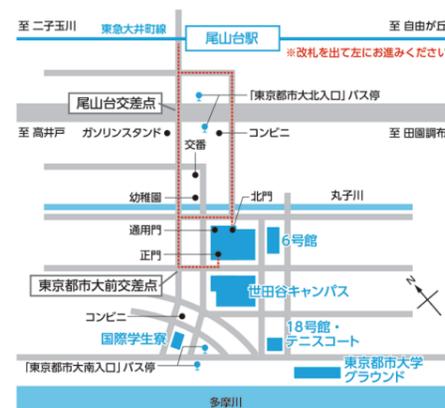
【エクスカーション】<https://bit.ly/jacp-setagaya2023-excursion>

6月30日午後開催する下北沢エクスカーションの申込フォームです。参加するためには、学会大会への参加申込と参加費支払いが必要です。事前に申込サイト(Peatix)で参加費支払手続きを済ませてから、本フォームで申し込みを行ってください。参加申込と参加費支払いが確認できた方から順番に受付いたします。



会場：東京都市大学 世田谷キャンパス 7号館
(世田谷区玉堤 1-28-1)
交通：東急大井町線「尾山台」駅下車 徒歩12分

【会場マップ】



第22回コミュニティ政策学会 世田谷大会

参加
受付中

大会テーマ：

世田谷から考えるコミュニティ政策の可能性 ～自律分散する住民まちづくり～

住民まちづくりの先進地の一つともいわれる世田谷区。都市デザイン室による参加型まちづくり、まちづくりファンドやプレーパークなど住民主体の活動の数々は、全国の住民まちづくりに大きな影響を与えた。しかし、2000年代以降は活動や体制の硬直化などから「周回遅れのトップランナー」と言われることもあった。こうしたなか、保坂区政の「観客からプレイヤーへ」の標語のもと進められた空き家活用事業、グリーンインフラの整備、下北沢駅前再開発、また2010年代の新しい住民プレイヤーの勃興など、全国的にも注目に値する新しい動きが芽生えている。近年の世田谷の住民まちづくりは、

団体ではなくパーソナルなネットワークを基盤に、それぞれの地域や分野で即興的に活動を生み出す「自律分散」が大きな特徴といえる。従来の住民団体によるまちづくりから、自律分散する住民まちづくりへのシフトによって、地域を構成する多様なステークホルダーの関係性はどうか、コモンズの所有、利用、マネジメントがどのように進化するのか、そしてこうした潮流がコミュニティ政策のあり方をどう書き換えていくのか。世田谷のこれまでとこれからをたどりながら、コミュニティ政策の可能性を考えたい。

日時：2023年6月30日(金)～7月2日(日)

会場：東京都市大学 世田谷キャンパス 7号館
(世田谷区玉堤 1-28-1) 東急大井町線「尾山台」駅下車 徒歩12分
※6/30のみ、北沢タウンホール

参加費：会員・非会員ともに3,000円
学生料金1,000円

申込：事前にPeatix(裏面)より、申込と参加費納入をお願いいたします

*注意：当日は会場内では飲食の販売はありませんので、各自ご用意ください。

主催：コミュニティ政策学会
office@jacp-official.org



後援：世田谷区 / 世田谷区教育委員会 / 一般財団法人世田谷トラストまちづくり

6月30日(金) <エクスカージョン>

15:00 ~ 18:30

下北線路街：『シモキタらしい』人々の営みが生み出す都市空間

小田急線の地下化に伴い 2022 年に全面開業した「下北線路街」は、シモキタらしい再開発事例として注目されている。ありきたりの大型道路や高層化による駅前再開発事業に対する反対運動から、住民、行政、事業者の対話がどのように始まり、展開してきたか。単なる意見聴取や合意形成ではなく、人々の「シモキタらしいマインドや行動」が主体となることで実現した都市空間の生成プロセスを振り返る。



【事前申込必要】事前に大会参加申込のうえ、下記からお申込みください。
https://bit.ly/jacp-setagaya2023-excursion

【登壇者】

- ・保坂展人氏 (世田谷区長)
- ・下平憲治氏 (Never Never Land 店主)
- ・橋本崇氏 (小田急電鉄)
- ・コメンテーター：中島伸氏 (東京都市大学)
- コーディネーター：坂倉杏介 (東京都市大学)、市川徹氏 (世田谷社)

15:00 ~ まちあるきセッション (定員 20 名) <受付開始 14:45 >
集合場所：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム

17:00 ~ ディスカッション (定員 50 名)
会場：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム

7月1日(土) <1日目> 13:00 ~ 17:30

13:00 ~ 13:15 開会式 (主催者あいさつ・来賓あいさつ)

13:15 ~ 15:30 全体セッション

「自律分散型コミュニティは可能か ~世田谷のいまとむかしから考える」

世田谷区は 1970 年代から住民主体のまちづくりを掲げてコミュニティ政策を施行してきたが、地域行政制度の条例化や、30 年続いた世田谷まちづくりファンドの終了など、現在大きく変化しようとしている。一方で、世田谷区内では自律分散型とも捉えられる組織化にはなじまない活動が増加してきている。そこで、これまで多様に展開してきた市民活動の状況を振り返りつつ、新しい状況をふまえた世田谷の今後を展望することにした。

【登壇者】

- ・齋藤啓子氏 (武蔵野美術大学)
- ・市川徹氏 (世田谷社)
- ・饗庭伸氏 (東京都立大学)
- ・坂倉杏介 (東京都市大学)
- ・コメンテーター：玉野和志 (放送大学)
- コーディネーター：小山弘美 (関東学院大学)

16:00 ~ 17:30 分科会①

分科会 1-1 「世田谷まちづくりファンドの成果をどのように引き継ぐか」

1992 年に設立された公益信託世田谷まちづくりファンドは、多くの住民主体の活動を支援し、助成団体同士の交流を生み出してきた。しかしながら、2024 年度をもってまちづくりファンドの助成は終わりを迎える。ファンドがこれまで世田谷の地で紡いできたものは何なのか、またこれをどのように引き継いでいくのか、この部会で考えていくことにしたい。

【登壇者】

- ・小山弘美 (関東学院大学)
- ・風間委文子氏 (一般財団法人世田谷トラストまちづくり)
- ・福永順彦氏 (一般財団法人世田谷コミュニティ財団)
- ・上原幸子氏 (NPO 法人 砧・多摩川あそび村 / 武蔵野美術大学)
- ・コメンテーター：乾亨 (立命館大学)
- コーディネーター：市川徹氏 (世田谷社)

分科会 1-2 「次世代のまちの担い手としての創発的コミュニティ、または DAO 的まちづくりの可能性をめぐって」

地域の課題解決ではなく、個人の「好き」や「やりたい」を動機にパーソナルなネットワークをひろげ、徐々に多様な活動を生み出していく「創発的なコミュニティ」が全国で見られるようになった。世田谷でも「おやまちプロジェクト」や「チーム用賀」など、2010 年代半ば以降、活発な動きが生まれている。こうした動きは今後のまちの中心的なアクターとなっていくのか。また SNS の先には、コモンズをデジタル的に醸成する DAO などの活用が視野に入る。コミュニティ政策の視点から、これらの可能性を展望する。

【登壇者】

- ・高野雄太氏 (一般社団法人おやまちプロジェクト)
- ・新井佑氏 (NPO 法人 neomura、チーム用賀)
- ・武井浩三氏 (NPO 法人 neomura、チーム用賀)
- ・コメンテーター：谷亮治 (京都市まちづくりアドバイザー)
- コーディネーター：坂倉杏介 (東京都市大学)

7月2日(日) <2日目> 9:00 ~ 16:30

9:00 ~ 10:20 自由論題部会①

自由論題報告部会 1-1

- ①金谷一郎 (大阪経済法科大学) 「大阪市生野区御幸森を事例に地域活性化のネットワーク形成の検討」
- ②村松英男 (宇都宮大学地域創生科学研究科博士後期課程) 「国際移住者の意識の変容に関する研究—小規模民間支援グループへのインタビュー調査を通して—」

自由論題報告部会 1-2

- ①谷亮治・山田大地 (京都市役所) 「コロナ禍における市民活動の新設と展開プロセス~京都市伏見区醍醐地域 MK 氏の活動のケーススタディ」
- ②川村真也・羽後静子・勝信博 (中部大学・春日井市役所) 「大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり「勝川スタイル」の提案に向けた研究—春日井市勝川駅前通り商店街を事例として—」
- ③岡田衣津子 (日本福祉大学) 「住民主体の地域活動の創出に関わる支援者のあり方について~名古屋市牧野町の取り組みを事例に~」

10:30 ~ 12:30 自由論題部会②

自由論題報告部会 2-1

- ①杉岡秀紀・鍋島野乃花 (福知山公立大学・綾部市) 「コミュニティ政策としてのコミュニティナースの可能性」
- ②古市太郎 (文京学院大学) 「地域福祉コーディネーターの伴走によるテーマ型活動の自立と展開 ~一般社団法人・学習支援 A を事例にして~」
- ③浅石裕司 (日本福祉大学) 「地域福祉・まちづくり活動における「楽しさ」概念の検討—住民の主体性の醸成につながる理論構築を目指して—」
- ④手島洋 (県立広島大学) 「地域の複合的な福祉課題とその解決に向けた連携の現状と課題」

12:30 ~ 13:00 ポスターセッション

- ①村山史世 (麻布大学) 「Google App Sheet を活用したまち歩きとデジタルマッピングの実践」
- ②土屋薫 (江戸川大学) 「柏駅周辺の「パブリックライフ」から見たライフデザインの可能性」
- ③菊地敦子 (宇都宮大学地域創生科学研究科) 「地方における圏外出身者の育児期母親の WFC を緩和したワークスタイルの創出」
- ④林香織 (江戸川大学) 「通行量調査からみた地域イベントの評価—ながれやまオープンガーデンを事例に—」

13:00 ~ 14:30 分科会②

分科会 2-1 「区民版子ども子育て会議に見る子育て支援施策の形成プロセス」

2015 年に子ども・子育て支援新制度が開始、それに伴い各自治体で子ども・子育て会議が設置され、独自に子育て支援策の充実が図られることになった。しかし、時間や人数の制約から、公募委員として反映できる内容は限定的なものとならざるを得ない側面がある。そこで企画されたのが、関心のある人なら誰でも参加できる「区民版子ども・子育て会議」である。せたがや子育てネットが呼びかけ、支援団体や個人、行政などが立場を超えて話し合う場となり、区の子育て支援施策の形成に果たしてきた役割は大きいと考える。本分科会ではこの会議の意義や特徴について浮き彫りにすることにしたい。

【登壇者】

- ・松田妙子氏 (NPO 法人せたがや子育てネット)
- ・島川佳子氏 (世田谷区子ども・若者支援課)
- ・久米朋子氏 (元・世田谷区子ども・子育て会議 公募区民委員 /IBASHO)
- コーディネーター：後藤智香子氏 (東京都市大学)

15:00 ~ 16:30 分科会③

分科会 3-1 「プレーパーク活動から考える住民と行政の協働」

世田谷区では 1987 年の「新基本計画」において初めて「協働」が目指されたが、1979 年に羽根木プレーパークが公設民営で設立され、行政と市民活動との「協働」で運営されてきた経験が大きかったともいわれている。当時、住民参加が目指されながらも、行政主導が当たり前だった時代に行政との対等な協働関係を築いてきた。こうしたプレーパーク活動を軸にして、3 つの視点・立場から話を聞き、行政と住民や市民活動との協働のありようを考えたい。

【登壇者】

- ・荒木直子氏 (NPO 法人プレーパークせたがや)
- ・稲垣豊氏 (世田谷区公園緑地課)
- ・根本暁生氏 (NPO 法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク)
- ・コメンテーター：名和田是彦 (法政大学)
- コーディネーター：小山弘美 (関東学院大学)

自由論題報告部会 2-2

- ①津富宏 (静岡県立大学) 「市民による市民マニフェスト策定の試み」
- ②竹野克己 (法政大学ポアソナード記念現代法研究所) 「国土計画と市民参加」
- ③吉村輝彦 (日本福祉大学) 「コミュニティビジョンの可能性と課題~東海市における地域の将来像策定の取り組みを事例に~」
- ④北野哲也 (ひと・まち・未来研究所) 「住み続けられるまちづくり」

- ⑤伊藤雅春 (明星大学) 「コミュニティを編む—コミュニティ・デモクラシーを実現する熟議の渦の可視化—」

- ⑥杉崎和久 (法政大学)、市川徹 (世田谷社) 「まちづくり資料の継承のための取組~せたがやまちづくり文庫公開資料整理会について~」

- ⑦コミュニティマネジメント研究室 (東京都市大学) 「ポコポコ生まれるとゴロっと変わる!? おやまちリビングラボ」

分科会 2-2 「世田谷でのみどりのまちづくりの変遷と可能性 ~みどりを通したコミュニティ形成への展開~」

世田谷でのみどりのまちづくりは 1989 年に設立された「せたがやトラスト協会」(現:世田谷トラストまちづくり)にまで遡ることができる。協会は都市型のトラスト運動を推進する組織として普及啓発やボランティアのみどりの保全に取り組んできた。一方、住民発意の新たな動きとして「タマリバタケ」と「シモキタ園藝部」に着目したい。前者は区有地を畑・交流の場として活用し、後者は小田急線の線路跡地を緑化しみどりを育てている。両事例とも、みどりをともにする暮らしを生み出し、まちと住民、住民同士をつなごうとする取り組みである。都市におけるみどりの価値を再確認した上で、みどりを通したコミュニティ形成の可能性を議論したい。

【登壇者】

- ・荒井千鶴氏 (一般財団法人世田谷トラストまちづくり)
- ・asaco 氏 (NPO 法人 neomura/ タマリバタケ)
- ・柏雅弘氏 (一般社団法人シモキタ園藝部)
- ・ファシリテーター：山田翔太 (一般財団法人世田谷トラストまちづくり)
- コーディネーター：土屋薫 (江戸川大学)

分科会 2-3 「データで読み解く世田谷区の地域特性と地域コミュニティ」

本格的に EBPM (Evidence Based Policy Making) の推進に取り組む自治体が増えてきている。住民とともに地域のことを考えていく「ツール」としても捉えることができる。世田谷区では「参加のまちづくり」をキーワードにまちづくりを行ってきており、今後は新たな「参加」のかたちとして「データ」をもとに身近な地域活動の方向性を考える機会が増えていくと思われる。わがまちの今と未来を考えるためのデータにはどのようなものが必要か、どのようなデータがあれば地域のコミュニティ活動を捉えることができるのか、捉えたデータをどのように使っていくのかを、これまでの研究結果とコミュニティの現状を踏まえて考える。

【登壇者】

- ・田中陽子氏 (せたがや自治政策研究所)
- ・金澤良太氏 (東洋大学)
- ・井上文氏 (NPO 法人サーズ)
- ・伊藤雅春 (NPO 法人玉川まちづくりハウス)
- ・ファシリテーター：小山弘美 (関東学院大学)
- コメンテーター：玉野和志 (放送大学)

分科会 3-2 「世田谷における「福祉のまちづくり」の軌跡をたどる」

参加型まちづくりの先進自治体と言われた世田谷区において「福祉のまちづくり」は中心となる取り組みであった。1980 年代に都市デザイン室が主導し当事者参加が進められたハード整備から、その後条例づくりなど政策形成へと展開していった。また、2000 年頃には福祉的環境整備推進地区の取り組みがはじまり、当事者を含む地域住民と行政が協働して行ってきた。こうした「福祉のまちづくり」の軌跡をたどり、当事者から地域の多様な主体のネットワークに展開した取り組みを振り返る。

【登壇者】

- ・荻野陽一氏 (世田谷区自立支援協議会)
- ・宮地成子氏 (場所づくり研究所プレイス/鳥山ネット・わあ〜く・ショップ世話人)
- ・男鹿芳則氏 (元世田谷区職員)
- ・寺内義典氏 (国土館大学)
- コーディネーター：杉崎和久 (法政大学)